

令和3年度 江戸川区立大杉小学校 学校関係者評価 最終評価用報告書

学校教育目標	けんこうな子 進んでとりむ子 思いやりのある子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	保護者が安心して子どもを預けられる学校 学ぶことを楽しめ感じる児童 教育公務員として使命と責任を自覚し、常に力量を高める努力を行う教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<p><成果> コロナ感染症予防対策を徹底したことで、学校内でのクラスターを回避し、児童が安全・健康に学校生活を送ることができた。制限制約のある中においても、学校行事等を工夫して実施することで、ほぼ日常的に近い学校教育活動を実施することができた。</p> <p><課題> 学校経営上、まだ組織的に対応することが不十分であり、職層に応じた職務行動の強化を図るとともに、OJTの充実に努めて個々のスキルアップを目指すことが喫緊の課題である。</p>		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価			学校関係者評価		来年度に向けた改善策
					取組	成果	成果と課題	評価	コメント	
いきいきと学ぶ学校づくり	確かな学力の向上	・「確かな学力向上推進プラン」の実施・改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上 ・「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	全巻35回以上の放課後補習の実施。毎学期東京ベーンシックドリルの診断テストを行い、児童の学力を確認する。	2年生以上が毎学期に行う東京ベーンシックドリル診断テストにおいて各学級とも80%以上習得させる。	B	C	計画的に東京ベーンシックドリル診断テストの実施や放課後補習(ステップアップ)が実施できたものの、習得率は80%に及ばなかった。個に応じた課題や授業についていけない児童への放課後等の活用に関課題が残る。	C	日々先生方が子供たちに熱心な指導をしていることはありがたいと思う。学校に行く機会が減ったことで分りにくいところがあった。	放課後補習(ステップアップ)においては授業形式で学年合同で行い、底辺の引き上げを図る。
	読書科の更なる充実	・読書を通じた探究的な学習の充実(読書科ノートの活用、資料の収集の仕方や記録の取り方の指導、自己の考えをまとめ表現する方法の指導、朝読書と1単位時間の授業との関連付け、他教科との関連等) ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	朝の読書タイムの継続と充実を図る。中央図書館からの団体貸出を行い、読書環境を充実させる。学校図書館スーパーバイザーを招致し、学校図書館の環境整備をする。教員研修会を行う。	年間35回以上の朝読書。年間3回以上のスーパーバイザーの招致、2回以上の教員研修会を実施する。	B	C	スーパーバイザー招致により、環境整備と教員研修会は実りあるものとなった。保護者によるボランティアの代わりに教員による読み聞かせを行い充実を図った。探究的な学習については、iPadの活用が多くなったことにより課題が残った。	B	読み聞かせのお手伝いがなかなか思うようにできなくて残念だ。という保護者の声もあった。早く日常がもどってくることを願っている。	読書科の年間計画ならびに活動計画(内容)について、再検討し、より充実を図る。各教科において資料を使って調べ学習を充実させるとともに、調べるコールドへの応募者を増やす。
	体力の向上	・体育の授業や休み時間における全校運動遊びなど主体的な運動の実施による運動意欲の向上	体育の毎授業をととした基礎体力づくりと、わくわくタイムの充実	わくわくタイムを年間20回以上実施する。体力テストにおいて前年度よりもポイントを上げる。	C	C	コロナ禍により計画的な実施が難しくなった。体力テストの結果も目標には達しなかった。	B	コロナの影響を受け、運動会をはじめとする活動が思うようにできないことで、体力向上については難しいかと思う。	日常的に取り組めるような計画を立て実行する。
	オリパラ教育の推進	・「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組、「学校2020レガシー」の設定やオリパラコーナーの充実	全学年でオリパラ教育を充実させる。パラ番組中継の視聴、調べ学習、オリパラ給食の実	年間指導計画に基づき実施オリパラ給食は毎月1回実施掲示板を活用しコーナーを設置して意識を高める。	B	B	6年生だけだったが、パラアスリートと交流できよかった。レガシーを引き継ぎ継続して取り組む。	B	学校HPから情報を知ることができてよかった。子供たちにとって有意義な体験ができた。	学校HPから情報の取り組みを見える化するため、掲示板コーナーを継続していく。
	外国語教育の推進	・授業力の向上とALTの効果的な活用	高学年ではiPadを活用した授業 中学年では身振り手振りを活用してより親しみ活動の充実	高学年では年間70時間、中学年では35時間実施する。	B	B	プレゼンを作成しての発表やゲームをしながら活動することで、外国語への関心が深まった。	B	学校HPなどから情報は得ているが、実際に見学できなかったため、よく分からなかった。	時間講師による指導や評価の仕方を実践させる。
	健全育成に向けた取組の強化	・いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ・チャイルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	いじめ防止対策委員会を毎月実施し、情報共有を図るとともに、組織的に対応ができるよう努める。必要に応じ委員会を実施する。	いじめ0を実現する。	B	B	成果は、いじめ0であったこと。課題は、速やかな情報共有を図るとともに、教師が常に同じ内容を児童へ指導すること、SC等との連携の充実	B	先生方を信頼しているため、今後ともよりよい連携を図りながら、サポートしていきたい。	個人情報等に十分配慮して、可能な限り情報発信に努めていく。
	特別支援教育の充実	・校内委員会の活性化を図ることなどによる指導・支援の充実 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の充実	・毎月、特別支援委員会を実施し、指導の充実を図るとともに、必要に応じてケース会を設け、組織的に対応する。 ・大杉スタンダードの徹底 ・専門員やSC、心理士と連携を図り、積極的にアプローチしていく。	・配慮を要する児童への関わり方等、SCや特別支援専門員などにより研修を年間3回以上実施 ・学期に1回以上はお便り等を発行して情報発信に努める。	B	C	特別支援委員会を定期的に実施し、情報が共通できたことはよかった。保護者や地域への情報の発信においては課題が残った。	—	日頃より子供たちのためにご指導ありがとうございます。個人情報に触れない程度に取組や効果などを発信していただくと相談する保護者も増えるのではないのでしょうか。	学校からのお便り等を工夫し、周囲への周知に努める。
教員の資質向上	教員研修の充実	・学習用タブレットを活用した授業実施に向けた研修	ラインズの方を講師に迎え、リモート配信等具体的な操作方法を学ぶ。	学期に1回、計3回以上実施し、全教員が活用できるようにする。	B	B	コロナ不安のため自宅にいる児童へ授業を配信できたことや保護者をリモートで実施できた。教員使用の機器の不具合が多かった。	—	よく分からないが、子供たちは随分上手に使いこなしているようであった。	教員のiPad配布とともに、さらに充実させていく。
特色ある教育の展開	4年「荒川中土手探検」 5年「大杉キャリアプログラム」 6年「全員プラスバンド」 小中連携教育の推進	年間指導計画に教科領域と関連させて位置付け、意図的計画的に実施する。実施における課題を年度中に整理し方策を立てる。 「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	年間計画に基づき、確実な実施と課題の抽出及び方策の立案を行う。 「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携プログラム」による連携の充実	児童評価、学校関係者評価の指標において好意的反応が80%以上。 コロナ禍での計画を工夫し、100%実施する	B	B	コロナ禍においても指導の工夫や柔軟な対応を行い、4年・6年は実施し学小津の学びにつながった。5年は今後方向性を要検討。 中1キャンプの解消に向け、工夫した取組が実施できた。また、常に中学校の情報を6年教室に掲示し、意識化を図った。情報発信の工夫が	A	6年生全員プラスバンドは素晴らしい、本稿の伝統として今後も継続を願う。 コロナ禍のため、状況が不明	計画の時点から複数の案を準備しておき、共有するとともに、ファイル化して今後に役立てる。 進学に向け配慮を要する児童の引継ぎのため、連携の強化とシステムの構築を図る。小中連携についてHP上に掲載